

音源の比較試聴(28)

—バッハのヴァイオリン協奏曲—

1. 始めに

前報(27)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズで報告してきました。

今回、マスター音源を共通にしたアナログ盤、CD とそのリッピング WAV 音源および STAGE+ と Spotify からの配信を一挙に比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ドイツグラモフォン 483 5219

バッハ ヴァイオリン協奏曲集

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

ジェフリー・カーン指揮ロスアンジェルス室内管弦楽団



CD は同じ演奏の下記を使用します。また、この CD からリッピングした WAV 音源は、HFAS1-S10 と USB メモリーに収納しておきます。

ドイツグラモフォン 00289

バッハ ヴァイオリン協奏曲集

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

ジェフリー・カーン指揮ロスアンジェルス室内管弦楽団
配信は STAGE+ と Spotify から上記と同一の演奏曲を選択します。
それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

CD

EMT981→TruPhase(B)→TruPhase (A)

HFAD10-UBX→HFAS1-S10→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+
→TruPhase

HFAD10-UBX→HFAS1-S10→SWD-DA20→TruPhase

CD リッピング WAV

HFAS1-S10→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+→TruPhase

USB メモリー→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+→TruPhase

HFAS1-S10→SWD-DA20→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+
→TruPhase

Spotify

ルーター→スイッチングハブ→PC→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+
→TruPhase

ルーター→スイッチングハブ→HFAS1-S10→SWD-DA20→TruPhase

ルーター→スイッチングハブ→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+
→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、録音は比較的新しいデジタル録音であり、RIAA、正相、第4時定数で聴いていきます。デジタル録音らしくハーンのヴァイオリンは、爽やかでクリアーであり、バックのアンサンブルも明晰で、通奏低音も量感があります。このアナログ盤を基準にして以下の試聴を続けます。

CD の EMT981 による再生では、他のデジタル再生の基準としてきたようにこれまでと同様、アナログに近い音質で、GPS-777 からのクロック入力とバランス出力のメリットが感じられます。

CD を HFAD10-UBX から読み出して HFAS1-S10 と SWD-DA20 経由の再生と CD リッピング WAV を HFAS1-S10 から読み出して SWD-DA20 経由の再生は、ともに fidata ミュージックアプリを使用して再生し、DAC は SWD-DA20 を経由します。SWD-DA20 には、GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力していますので、この

効果もあって、ともにディテールの再現に優れています。CD 再生に関しては、SWD-DA20 への GPS-777 のクロック入力もあって EMT981 の再生に近づいてきています。

CD を HFAD10-UBX から読み出して HFAS1-S10 と Sonica DAC 経由の再生と CD リッピング WAV の HFAS1-S10 から読み出して Sonica DAC 経由の再生と CD リッピング WAV の USB メモリーから読み出して Sonica DAC 経由の再生は、ともに Sonica アプリを使用して再生し、DAC は Sonica DAC を経由します。従って音質的には良く似ていますが、CD 再生に比べて CD リッピング WAV 音源の HFAS1-S10 の SSD から読み出しは、再生経路が一つ減ることもあって、やや後者の方が緻密な音の印象があります。CD リッピング WAV の USB メモリーからの読み出しは再生経路が最短ですが、音楽用ではない USB メモリーのためか、前 2 者に音の緻密さで及ばないところがあります。

STAGE+の PC 経由の再生は、ハーンのヴァイオリンも、バックのアンサンブルも、通奏低音もかなりの程度、アナログの再生に近似しており、強いて言えば、響きが少しやせ気味になるくらいです。

Spotify の PC 経由の再生は、配信元が違うだけで、再生ルートは同じであり、音質は非常に似かよっています。これら PC から Sonica DAC への送り出しは PC で 192KHz にアップサンプリングしています。

HFAS1-S10 による Spotify Connect の再生は、上記 PC 経由と同レベルの音質で、SWD-DA20 に GPS-777 からクロックを入力していますので、その効果があるものと言えます。

同じ GPS-777 からクロックを入力している SWD-DA20 経由ということで CD を HFAD10-UBX から読み出して HFAS1-S10 と SWD-DA20 経由の再生と CD リッピング WAV を HFAS1-S10 から読み出して SWD-DA20 経由の再生とを比較してみましたが、配信であつてもさほど引けをとっていません。

Sonica DAC による Spotify Connect の再生は、上記の PC 経由と HFAS1-S10 による Spotify Connect の再生より緻密さが劣ります。受信と DA 変換を同時に行っており、上記のようなアップサンプリングや GPS クロックの入力はありません。

4. まとめ

アナログ再生、CD 再生、CD リッピング再生、STAGE+と Spotify からの配信を一挙に比較してみました。すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような大きな格差がなくなってきました。個々の再生経路への対策とか、DAC へのクロック入力で差がついてくることも分かりました。

以上